

February  
2010  
Shipping  
**FLASH**

# ソマリア沖・アデン湾における海賊事件への対応について国交大臣、防衛大臣に要望

ソマリア周辺海域における海賊事件が一向に減少の兆しが見えないこと、また昨年政権が交代したこともあり、当協会 宮原耕治会長は、1月15日に前原国土交通大臣、1月18日に北澤防衛大臣に面会し、以下のとおり護衛活動の継続と護衛頻度も含めたより効果的な活動の実施について要望を行った(防衛大臣宛も内容は同一。【資料】参照)。

(海務部:山内)



前原誠司国土交通大臣へ要望書提出



北澤俊美防衛大臣へ要望書提出

## 【資料】

国土交通大臣・海洋政策担当大臣  
前原 誠司 殿

船主海 第3号  
2010年1月15日

社団法人 日本船主協会  
会長 宮原 耕治

## ソマリア沖・アデン湾における海賊事件への対応について

平素より、わが国海運業界の活動に格段のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、頻発するソマリア沖・アデン湾における海賊事件への対処につきましては、国会関係、および国土交通省・防衛省・海上保安庁をはじめとする政府関係の方々のご理解・ご協力により、わが国をはじめとする各国商船の安全確保にご尽力をいただいておりますことに改めて深謝申し上げます。

この海域を通航する商船にとりまして、海上自衛隊の自衛艦および哨戒機による護衛は何にも増して心強いところですが、現地の海上自衛官・海上保安官の皆さまが酷暑と緊張の中、護衛活動にあたられていることを考えますと、感謝に耐えません。

海上自衛隊による護衛活動につきましては、直接護衛方式を採用されていることや護衛スケジュールの正確性等の理由から、内外の関係者より極めて高い評価を得ております。事実、護衛船団に対する海賊行為は皆無であり、護衛を受けた船舶からの感謝のメッセージをはじめとして、国際海事機関(IMO)および国際海運会議所(ICS)からの感謝状や、広く各国の船主団体からも感謝の声が届いております。

申し上げるまでも無く、同地域における海賊事件の根本的な解決を図るためには、ソマリア国の自立・安定を図ることが不可欠であり、わが国政府におかれましても、国連等の国際機関と連携して種々ご対応いただいていることと存じます。

しかしながら、ソマリア国および周辺海域における海賊事件は一向に減少する兆しが見えておりません。従って、海賊事件が沈静化するまでの間は自衛艦等による護衛活動の継続が是非とも必要であります。

また、最近の傾向として、海賊事件の発生海域が拡大する一方で、ソマリア沖に展開する外国艦船の減少が見込まれると仄聞しており、さらに昨年の実績を見ると、3月から5月にかけて海賊事件が多発する傾向にあることから、今後の動向に強い危機感を抱いております。

つきましては、これら事情にご配慮いただき、護衛頻度を増加するなど護衛活動をより効果的に実施するために、あらゆる手段をご検討いただきますようお願い申し上げます。

以上